

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600577		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホームふれあいみなみ野館		
所在地	帯広市清流東4丁目3-14		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0174600577-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成31年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、運動機能・嚥下低下防止の為体操・歌を継続している。
 利用者の方々に協力を頂きながら生活する事(利用者を巻き込んで残存機能を失うことが無い様)を心がけている。
 職員は感謝の気持ちを忘れないよう心掛けている。また、利用者・職員は明るいホームを目指している。
 小動物とのふれあいを通じて生活に刺激と心を和やかにするよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR帯広駅から南に国道236を15分程車で走行すると閑静な新興住宅が立ち並ぶ地にあり、開設して7年を迎え職員も安定し、利用者や家族からも信頼され、地域に根ざした環境の中で利用者や家族が安心して暮せるよう工夫をし日々のケアを実践している。母体運営法人は介護保険事業などを幅広く展開し、事業所間で研修や行事、災害対策などで連携してより良いケアに職員全員で取り組んでいる。地域の一員として、町内会の諸活動や地域行事に積極的に参加して交流し、事業所の行事(敬老会・焼肉会等)や避難訓練などに地域住民も参加して互いに交流を深め、町内会の諸活動へも積極的に取組むことで地域との相互の協力関係を築いている。利用者の高齢化に伴い重度化及び終末期、看取りという問題に差し掛かりながら、重度化した場合の対応に係る支援並びに介護指針を再度家族に説明しながら看取りまでのケアに努めるよう支援している。近くの総合病院とは定期的な往診体制が出来ており、重度化支援についても前向きに取り組んでいる。職員は明るく笑顔で、利用者の出来る事を見守り、希望や意思表示をきめ細かく把握し本人や家族の希望するケアの実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念により、職員全体で地域密着サービスを目指して取り組んでいて、社内研修会で理念を確認している。	地域密着を意識した事業所独自の理念を事業所内に掲示している。職員は常に意識づけを行いながら、利用者ひとりひとりの尊重を大切に理念の実践に努めながら日々のケアに繋げている。	福祉関連の環境や利用者の高齢化、地域の変化に鑑みて、理念の見直しが必要か職員全員で検討して、現状に則した理念を作成する事を期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に出来る限り出席させて頂くなど、地域の方々との交流を積極的に行っている。	町内会に加入し、町内の新年会や清掃、廃品回収に協力したりして地域との親交を深めている。事業所の敬老会や焼肉会、防災訓練などに住民の参加がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業者は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新興住宅地であり、まだ近隣は空地が多く交流は少ないが、運営推進会議の委員である町内会長を通じて、徐々に認知症の理解を今後深めて行く。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、グループホームの様子を見てもらいながら行事報告、計画及び事故報告等をし、意見交換を行いサービス向上に努めている。また、秋には運営推進会議に於いて防災訓練を実施し、訓練に対する意見や助言を頂いた。	町内会役員、地域包括支援センター職員、知見者、家族代表等が出席して年6回開催している。会議では日々の活動状況や避難訓練などの報告を行いながら、参加者より意見や助言等を得て運営に反映させ、日々のケア向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の問題・疑問等には積極的に市役所に出向き、相談指導を受けている。	市の担当者と連携を密にし何でも相談出来る関係を築いている。制度の運用や福祉事業等について気軽に相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束、虐待防止委員会を設置し、又全職員のアンケート調査を実施し、委員会で検討し社内研修にて報告意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。介護保険法に定める身体拘束適正化委員会の開催を、2ヶ月に1回実施し、「身体拘束ゼロのケア」に取り組んでいる。	母体法人が身体拘束廃止に関する委員会を常設して定期的に研修会を行い、受講した職員は会議等で報告を行っている。身体拘束による弊害も含めて正しい知識を得ながら常に拘束のないケアを実践している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で身体拘束、虐待防止委員会を設置し、又全職員のアンケート調査を実施し、委員会で検討し社内研修にて報告意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。			

グループホームふれあいみなみ野館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について外部講師による社内研修及び外部研修を行っている。また現在、制度を利用している入居者の方もいるので、今後も必要に応じて対応して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に見学や体験して頂き、提供するサービスの内容を説明し、利用者が安心して生活出来るかを理解納得してから入居していただくようにしている。退去時は次の生活場所の相談支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を定めていて、ご意見箱を設置し意見を受けている。 また、苦情解決委員会を設置している。 意見があった場合はスタッフ全員で会議を持ち運営に反映していきたい。	日々のケアから利用者の要望を把握し、家族等からの意見・要望は真摯に受け止め検討して運営に反映させている。又、日頃から信頼関係を築けるように面会時には職員の方から様子を伝えるようにしている。毎月発行の通信「みなみ野館だより」を家族に送って、来訪できない家族にも利用者の日常の様子を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は組織体制により上層部に上げていく体制で反映している。 又、施設長は定期的に職員と面談し、出た意見や提案を含め会社に報告する体制になっている。	管理者は日々職員とコミュニケーションを取り、言いやすい環境を作っており、会議等では職員の意見や要望を出せる機会を設け、出された内容は検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は就業規則等を定めている。又、年1回の昇給や各種手当の拡充を図り個々の年収増に努めている。 親睦会の福利厚生には職員の意見も取り入れ年々充実している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で職員研修を実施し、全員が研修を受けられる機会を確保している。 外部研修にも積極的に参加しケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加入し、同業者とのネットワークづくりや相互評価事業により評価を受けサービスのケア向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族による施設見学を行い、面談説明し、本人の要望等を聞き納得・理解されてから入居をしていただくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては、利用料、サービス内容等を説明し、要望等に対して出来るだけ希望に添うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に本人及び家族の生活歴、主治医、各関係機関の生活等を把握しアセスメントにより支援するサービス内容を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ本人のペースに添って自分に出来ること、支援が必要なことを把握し、その人らしい生活をしていただける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆が希薄にならないよう訪問をしていただく、又、月1回のおたより等で利用者の現状報告し親密な関係を築く様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人、知人については出来るだけ疎遠にならないよう支援に努めている。ドライブでは中心街や駅、デパート等懐かしい場所に立ち寄る様にしている。	友人や知人が来訪した時は気軽に面会出来る雰囲気づくりに心がけ、馴染みの方との面会が途切れないように心掛けている。ドライブで馴染みの場所を訪ねる等、懐かしい思いを大切にしよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係を築くため、部屋の閉じこもりを少なくし、出来るだけリビングでの生活を多くしお互いに支え合える環境作りに努めている。		

グループホームふれあいみなみ野館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話、入院の場合は訪問等を通じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の尊厳を重視し、希望、意向を見極めるように努め、困難な場合はケース会議及び家族の意見も聞き対処している。	ひとり一人の状態を把握し、家族からも情報を得てその人の暮らし方に添うよう努めている。日々の中で本人の希望や意向、困っている事を把握するよう努めケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の馴染みの家具、什器類等を利用し、出来るだけ生活環境の変化を少なくしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身の状況を把握し、その人の有する能力を発揮してもらえる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞きながら、スタッフ全員でモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、利用者や家族の希望や医師の意見を聞きながら介護計画を作成し、利用者や家族の同意を得ている。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、体調変化等を記録しスタッフ全員が共有し、介護及び介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人の要望等に応じ柔軟に対応できるよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域町内会に加入しているが、近隣はまだ空地が多い。行事では近くの公園を利用するように心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が従来のかかりつけの医療機関での受診を基本に対応し、必要に応じて家族に代わってスタッフが通院に付き添っている。また、通院等の負担にも配慮し、訪問診療での対応も行っている。	利用者と家族が希望するかかりつけ医の受診継続を支援している。基本的には家族対応での受診になっているが、職員が同行受診することもある。受診記録は同行した職員や家族からの報告を基に作成しており、常に本人の状態が把握できるようになっている。	

グループホームふれあいみなみ野館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を把握し看護師に情報を提供し相談を受けている。また、看護師は医療機関への情報を提供し適切な医療を受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、訪問面談等を行い受け入れ体制を整え早期退院に向けての取り組みを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については本人、家族と話し合い説明をし、お互いの方針を共有し支援に取り組むようにしている。	入居時に重度化や終末期のあり方について利用者や家族に説明し同意を得ている。看取りの実績はないが今後家族との意向を踏まえながら、十分納得出来る話合を行い、職員の勉強会を行いながら看取りの支援に努める。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時及び事故発生時の応急手当等については、社内研修等において関係機関による実践訓練の実施を随時行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災対策要綱を設置し法人全体で対策を行っている。 各施設で年2回の防火防災訓練を消防署の協力により実施している。	年2回の防災訓練を消防署の協力を得て実施し、他に特別に水害対策として訓練を実施している。地域住民や運営推進会議参加者も訓練時の役割をもって参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう言葉づかいには十分に気をつけた対応を日頃から心がけている。研修会でも研修している。	利用者の気分を壊さないような声掛けやコミュニケーションの取り方について、職員の申し送り時等で常に話し合いを行い、利用者の尊厳を大切に人格を尊重する対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に見合った選択の場を設け、希望が叶うよう働き掛け、利用者本位の生活援助に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の毎日の流れを優先することなく、希望に添った一人一人のペースを大切にするように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容による理美容、又、身だしなみについては個々の希望により気に入ったものにするように努めている。		

グループホームふれあいみなみ野館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の決まった食事でなく、週に1度は利用者の希望に応じて献立をしている。又、個々の能力にあった食事の準備、後片付けを手伝ってもらっている。	利用者の希望や好みを反映して食事を提供している。利用者の能力に応じて、準備から後片付け迄役割をもって積極的に出来る事を行っている。誕生食や行事食を作ったり、外食を取り入れたりして食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量、栄養バランスに配慮している。水分量についても脱水にならないよう個々にチェックし確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食事後一人一人本人の能力に合わせて支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。又、本人の尿意、間隔等を配慮し、状態に合わせた下着、リハビリパンツ、尿取りパッドの使い分けをしながら自立に向けた支援を行なっている。	排泄パターンを把握しながら、さりげない誘導によりトイレでの自立排泄を支援している。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事については出来るだけ繊維質の多い食材に配慮している、又個々の身体に応じた運動をし健康状態を保つよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については一応入浴日を定めているが、個々の体調等に配慮しながら、利用者の希望に添った対応に心掛けるよう支援している。個々の身体能力に合わせて色々な器具を使用して入浴を楽しんで頂いている。	週2回以上の入浴を心掛け、利用者の体調に配慮しながら入浴の支援を行っている。入浴時には会話することで、利用者の意向が把握できるので、楽しい会話を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、又、その日の体調等状況に応じ休息、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する成分、目的及び副作用等を理解し、服薬に対する症状を把握し変化のある場合は主治医に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームにおいて個々の能力にあった役割分担をし、その人らしい豊かな生活が出来るよう支援している。		

グループホームふれあいみなみ野館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ストレスをためない様利用者の希望に添って散歩、買い物等を行っている。又、行事計画により、外食、ドライブ等気分転換が図れるよう支援している。 玄関先で外の空気を吸い音楽を流しながら昼食、おやつを楽しんでいる。	近所の公園に散歩に行ったりして近所の方々と会話をしたり、又スーパーに行ったりと日々楽しんでいる。個別の外出支援が困難なときは家族の協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物やお金に対する欲求が少なかったり、無くなって来ている方などには外出時に買物を促したり、レジでの支払いをあえてやって頂くなど個別の対応に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への電話については本人の希望に応じいつでも連絡可能な様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分についてはいつも清潔にし、又、採光が十分に取れるよう配慮し、季節の花を飾る等居心地に良い共用空間づくりに勤めている。	共有空間は採光が良く、居間と廊下が広いので運動スペースとなっている。壁には季節感ある飾りつけがされたり、外出時やイベント時の写真が貼られており、居心地よく過ごせるように工夫されている。調理室から居間全体が見渡せるため、利用者のくつろいだ姿が見られ安全を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはいつも利用者が集まり、会話を楽しめるようにしている。モルモットを飼い、入居者の心を和やかにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた馴染みの家具等を持ち込み、今までの生活と変化が無いよう配慮し居心地良く暮らせるようにしている。	馴染みの家具・仏壇を持ち込んだり、家族の写真等も飾られていて一般的な家庭的な雰囲気が醸し出されている。総ての部屋に日光が入る明るい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせて、入居者が安心出来る空間作りを心がけている。		